

Hitachi Koki

日立ロール釘打機

VH-650

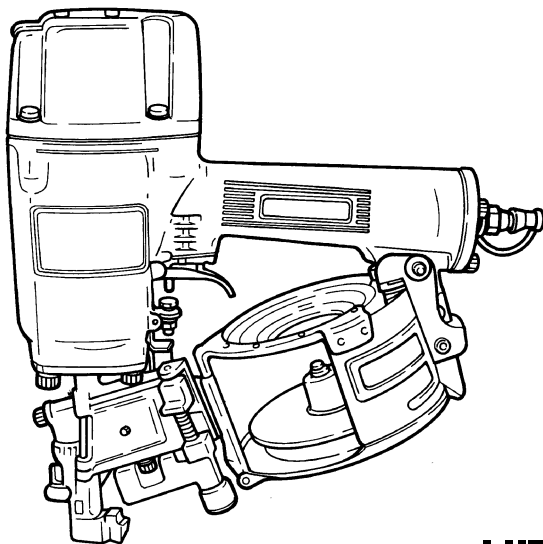
取扱説明書

枠組壁工法用認定品：認定番号 建設省東住指発第212号

このたびは日立ロール釘打機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みにになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



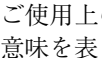
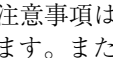

HITACHI


目 次


ページ

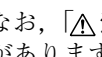
釘打機の安全上のご注意	2
ロール釘打機の使用上のご注意	8
各部の名称	8
仕 様	9
釘の選び方	9
標準付属品	10
別売部品	10
用 途	10
作業前の準備	11
ご使用前に	12
使 い 方	14
保守・点検	16
エアコンプレッサと作業の速さ	19
別売部品の使い方	19
オイラー・フィルタ・減圧弁	20
使用潤滑油	20
ご修理のときは	21
全国営業拠点	裏表紙


警告， 注意， 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」と「 注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。また、「 注」の意味も説明します。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

 **注** : 製品の据付け，操作，メンテナンスに関する重要なご注意。

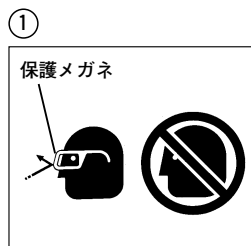
釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警 告

作業前

- ① 保護メガネを使用してください。
- 作業中は、保護メガネを使用してください。
 - まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
釘を連結しているプラスチックの破片や打ち損じの釘が目当たり、けがの原因になります。



- ② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

本機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。



- ③ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。

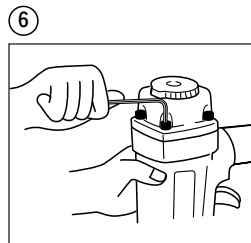
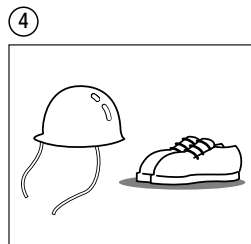
- ④ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。

- ⑤ きちんとした服装で作業してください。

- ⑥ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

- ネジ類の締め付けがゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- プッシュレバーがスムーズに動くこと。

異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

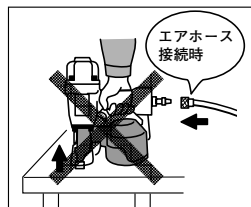


⚠ 警 告

⑦ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
 - プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
 - 射出口を人体に向けない。
- 誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

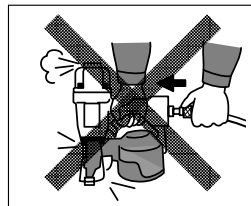
⑦



⑧ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - 空気漏れや異常音がしないこと。
- 異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑧

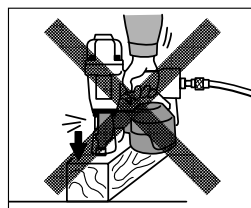
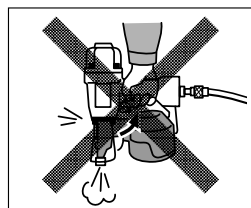


⑨ 使用前に安全装置の確認をしてください。

本機は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、釘が発射されない構造になっています。釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の確認をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。
- 異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑨



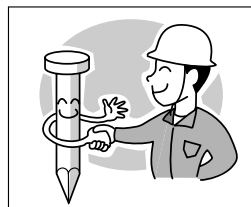
⑩ 用途にあった作業に使用してください。

- 本機は、木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑩

⑪ 指定の釘を使用してください。

指定された釘以外のものを使用すると、けがや本機の故障の原因になるので使用しないでください。



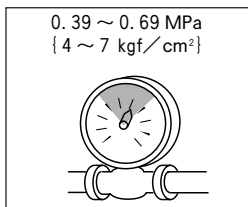
⚠ 警 告

- ⑫ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、釘打機本体やエアホースに触れさせないでください。けがの原因になります。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
- ⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
- ⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

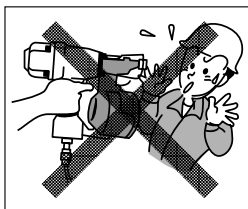
作業中

- ① 指定の空気圧力で使用してください。
- 本機の使用空気圧力範囲は $0.39 \sim 0.69 \text{ MPa}$ { $4 \sim 7 \text{ kgf/cm}^2$ } です。この範囲内で使用してください。
 0.69 MPa { 7 kgf/cm^2 } を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
- ② 人体に射出口を向けないでください。
- 人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。
- ③ 射出口付近に人体や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。
- ④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、本機やエアコンプレッサを使用しないでください。
釘を打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

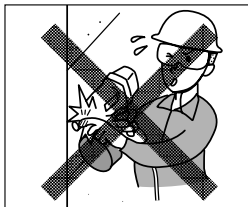
①



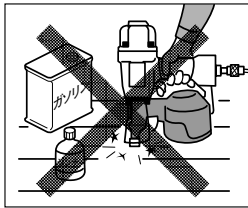
②



③



④

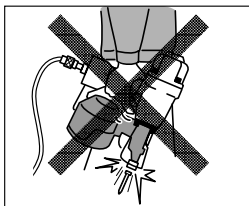


⚠ 警 告

⑤ 釘を打ち込むとき以外は、引金に指をかけないでください。

- 引金に指をかけて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- 釘を装てんするときや調整などをするとき、引金に指をかけないでください。
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

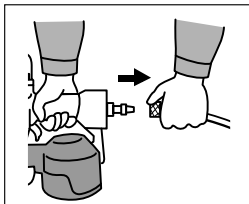
⑤



⑥ 次の場合は、エアホースをはずし、圧縮空気を抜いてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、釘づまりの直しなどの場合。
- 釘を装てんする場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑥



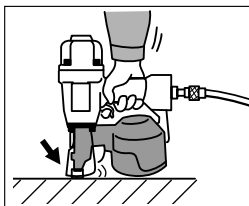
⑦ 引金に指をかけた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指をかけた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑧ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
釘がはね返ったり、本機が反発することもあり、けがの原因になります。

⑧



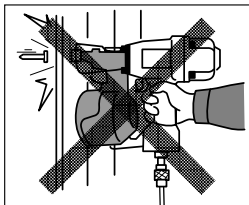
⑨ 作業中はまわりの人に注意してください。

- 釘を連結しているプラスチックの破片や打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑩ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。

⑩



警告

- ⑪ 機体の反発に注意してください。
- 硬い所に打った場合、本機がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

- ⑫ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- 転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
- けがの原因になります。

- ⑭ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

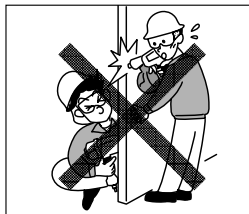
- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
- 不意にエアホースを引っかけたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
- 後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。
- 後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

- ⑮ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

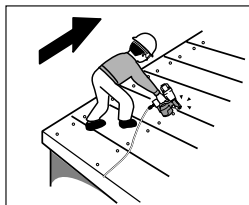
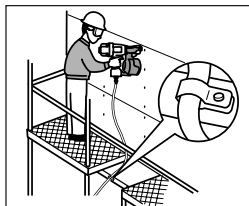
- 釘打ち機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

- ⑯ エアホースをつかんで本機を移動しないでください。

⑫



⑭



警告

- ⑰ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

- ⑱ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

⑱



作業後

- ① 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

釘を残しておくと、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。

- ② 本機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当たたまま放置しないでください。

- ③ 釘打機は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。

- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。

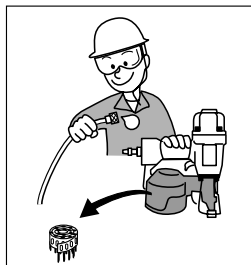
- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。安全性が損なわれ、けがの原因になります。

- ⑥ 釘打機の修理は、専門店で依頼してください。

- 修理は、必ずお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターにお申し付けください。

修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

①



ロール釘打機の使用上のご注意

先に釘打機として共通の注意事項を述べましたが、ロール釘打機として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警 告

- ① 釘ガイドは完全に閉じ、使用中は開けないでください。
釘ガイドが開いた状態で作業をすると、釘がそれて発射する恐れがあり、けがの原因になります。
- ② マガジンの開閉は慎重に行なってください。
釘の装てん状態で、射出口を下向きにしてマガジンを開けると、釘が落下して、けがの原因になります。

各部の名称

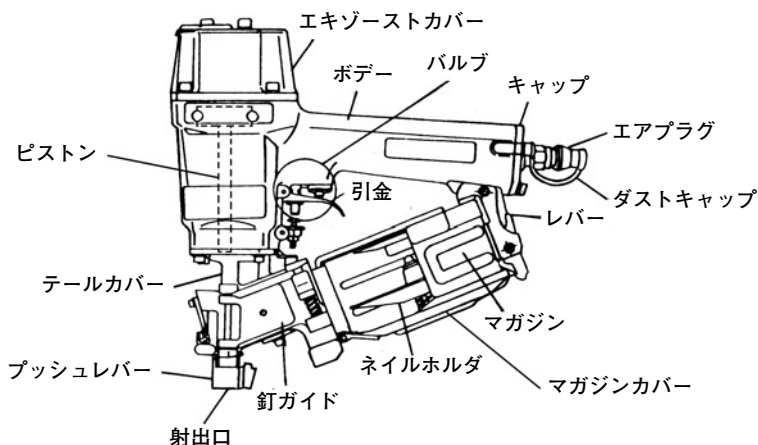


図 1

仕 様

動力形式	ピストン往復動式
使用空気圧力	0.39～0.69 MPa {4～7 kgf/cm ² }
能力(使用釘)	V 2238B・V 2245B・V 2250B・V 2565 V 2850 (枠組壁工法用認定釘)
釘の装てん数	V 2238B・V 2245B・V 2250B: 385本(1巻) V 2565・V 2850 : 300本(1巻)
大きさ	長さ294 mm×高さ282 mm×幅122 mm
製品質量	3.0 kg
釘送り方式	ピストン往復動式
使用エアホース(内径)	6 mm以上

本製品は、“枠組壁工法”用として、建設大臣の認定を受けた製品です。

釘の選び方

本機は、図2に示すプラスチック連結釘が使用できます。
また、形状および寸法は図3に示す釘を準備してあります。
釘打ち作業の用途に合わせて適切な釘をお選びください。
釘はロール釘打機お買い上げの販売店でお求めください。

プラスチック連結釘
1巻：300本，385本

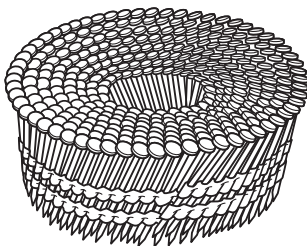


図 2

(寸法単位：mm)

バーブド釘				スムーズ釘 (枠組壁工法用釘)
V 2238B	V 2245B	V 2250B	V 2565	V 2850
38	45	50	65	50
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2.2	2.2	2.2	2.5	2.8

図 3

標準付属品

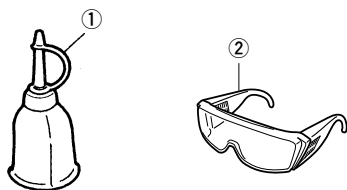


図 4

- ① 油さし …………… 1 個
(釘打機・タッカ用オイル入り)
- ② 保護メガネ …………… 1 個

別売部品

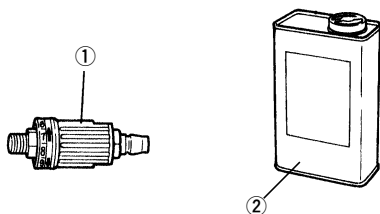


図 5

- ① 打込調整器
- ② 釘打機・タッカ用オイル

用 途

- 床張り，屋根張り，壁下地張り，その他建築用途全般
- 家具，建具の木枠製造，裏張り釘打ち作業
- プレハブ住宅などの建築用途全般
- 枠組壁工法（枠組壁工法に用いる構造用合板などへの釘打ち）
- 製品メーカーおよびその他一般の梱包作業
- 木箱などの木工製品の釘止め

作業前の準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になる必要があります。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

作業前に次の準備をすませてください。

1. エアホースの準備……………

本機の使用エアホース内径は6 mm 以上です。エアホースをエアコンプレッサ側にしっかり接続してください。

注 ・エアホースの長さは、30 m 以内のものをお使いください。エアホースが長いと圧力降下をして十分な打ち込み力が得られません。

2. エアコンプレッサ内のドレンを除去する……………

水や油が内部にたまりますと、さびが発生したり故障の原因になります。ご使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。(詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。)

3. 釘の準備……………

釘打ち作業の用途にあった釘を準備してください。(9 ページ参照)

4. 安全点検……………

警 告

- ・子供など作業員以外は近づけないでください。
- ・ネジ類の締め付けがゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- ・損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

16 ページの「保守・点検」を参照し、必ず行なってください。

ご使用前に



警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

1. 空気圧力の確認……………



警告

- 本機の使用空気圧力の範囲は 0.39 ~ 0.69 MPa { 4 ~ 7 kgf/cm² } です。この範囲内で使用してください。

空気圧力は、釘打ち込み能力（釘径、釘の長さ、木材の堅さなど）に合わせて、0.39 ~ 0.69 MPa { 4 ~ 7 kgf/cm² } の範囲で調整してお使いください。

空気圧力が 0.39 MPa { 4 kgf/cm² } 未満または 0.69 MPa { 7 kgf/cm² } を超えますと本機の性能、寿命、安全に影響しますので、エアコンプレッサの空気圧力、容量、配管に十分考慮が必要です。

2. 給油について……………

- 本機を使用する時は、エアーセット（20 ページ参照）をエアコンプレッサと釘打機の間に取り付けてください。エアーセットからの給油は各部の動作が円滑になるとともに本機の寿命も長くなり、またさびの防止にもなります。

オイラーの油滴下量は 5 ~ 10 回打込み毎に 1 滴の割合で調整してください。

- オイラーを取付けない場合は、必ず 1 日に 2 回以上、作業の前後に 2mL { 2cc } 程度の油をエアホース取付口から入れてください。

作業前の油は潤滑油となり作業後の油はさび止めとなります。

- 注** • 作業前の場合、給油直後に作業をすると、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散ります。油がかかっても支障のない所で 2 ~ 3 本釘を打って、それから作業してください。

- 作業後の場合、注油後 1 本だけ釘を打つと、油が内部に行き渡ります。

- 油は、付属の油のご使用を推奨いたします。その他、市販で使用できる油を 20 ページに示しましたので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

3. エアホースを接続する……………

警告

- 本機にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。
- 引金に手を触れない。
 - プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
 - 射出口を人体に向けない。

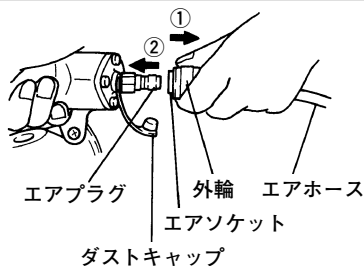


図 6

本機にエアホースを接続する場合はエアプラグからダストキャップをはずし、図6のように、①エアソケットの外輪を引き、②エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

(手を離すと外輪は戻ります。)

4. 釘を入れる……………

警告

- 釘を装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

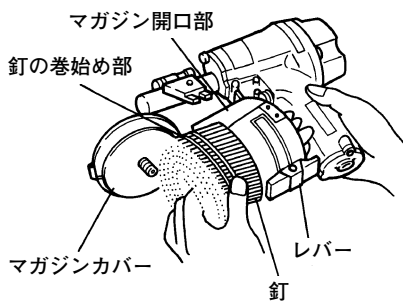


図 7

○ 釘はレバーを押し、マガジンカバーを開いて入れてください。この時、釘の巻始め部をマガジンの開口部に入れますと、次の作業が簡単になります。(図7)

○ 釘がマガジン内に完全に入っていることを確認しマガジンカバーをとじてください。

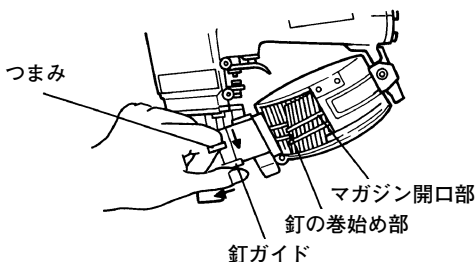


図 8

○ 釘ガイドとつまみに指をかけ、つまみを下へ押ししてそのまま左へ開いてください。(図8)

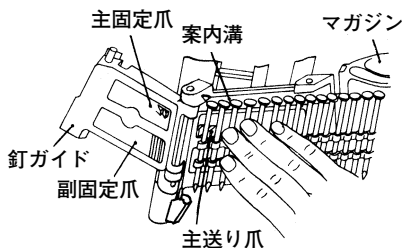


図 9

- 釘を装着するためにマガジン内から引出してください。釘列の最初の釘を送り爪の2本の爪の間へ入れ釘頭が案内溝に入るようにしてください。送り爪の前へ最初の釘が入ると釘ガイドがうまく閉じないことがありますのでご注意ください。(図9)
- 釘ガイドとつまみに指をかけ、つまみを下に押し釘ガイドを右に回して完全に閉じます。

以上で釘の装てんが完了します。

使 い 方

⚠ 警 告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に人体や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。

- 注**
- 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることや、連結バンドが切れることがあります。
 - 最後の釘を打ち込むとき、釘が脱落したり、曲がって打たれる場合があるので、ご注意ください。

1. 釘の打ち方……………

(1) 断続的に打つ方法

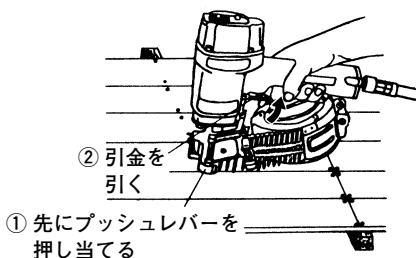


図 10

釘を打つ所にプッシュレバーを軽く押し当てて、引金を引けば一撃で打ち込めます。(図10)

- 注**
- 本体を強く押し付けた場合や打込み材が硬い場合などに二度打ちを生ずることがあります。このような場合は、引金にかけた指をすみやかにはなすような打ち方をしてください。

(2) 連続的に打つ方法

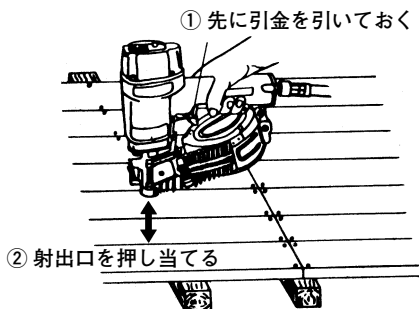


図 11

初めに引金を引いておきます。その後、釘を打つところに射出口を「トン・トン・トン」と押し当てれば、釘が打ち込まれます。(図 11)

○ 安全装置について

本機は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、釘が発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、釘は発射しません。これは、釘を打つとき以外に誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、釘が発射されることを防ぐためです。

注 • 空打ちの注意

連続して釘を打っていると、釘がなくなったことに気がつかず、そのまま使用している場合があります。これを「空打ち」といい、空打ちを続けると各部に影響を与えますので、空打ちをしないようご注意ください。

- 本機に使用する釘は、途中で連結バンドが切れていると、釘が送られず空打ちします。そのときは再び釘を引き出し、装てんしなおしてください。

(3) 単発打ち用部品セット (別売部品) について

⚠ 警 告

- 単発打ち用部品セットの取付けは、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
- ご使用前に単発打ち部品セットに付いている取扱説明書をよくお読みください。

本機には単発打ち用部品セットが別売部品として用意されています。単発打ち用部品は、プッシュレバーを押し当て、次に引金を引く操作以外は釘が打てない構造とするものです。狙った場所に一発ずつ確実に打つことができます。

(4) 作業中断時、使用後のご注意

警 告

- 使用しない場合や作業中断時、使用後はエアホースをはずしてください。
- 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

注 • 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0となります。

2. 釘の取扱い方……………

- 注** • 釘の梱包箱、釘単体のいずれの場合も扱いをていねいに行なってください。落としますと、連結バンドが切れます。また、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘づまりなどが発生するため、使用しないでください。
- 釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結バンドに不具合が生じる場合があるので、使用しないときは釘梱包箱に入れておいてください。

保守・点検

警 告

- 釘づまりを直すときや点検・手入れの際は、必ずエアホースをはずし、釘を全部抜き取ってください。

1. 各部取付けネジの点検……………

各部取付けネジでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締めなおしてください。

ゆるんだままお使いになると、けがなど事故の原因になります。

2. ごみ・ほこりの防止……………

- ごみやほこりが内部に入らないよう、エアホース接続の際には、口元のごみをぬぐってください。
- 使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、本体内にごみが入るのを防いでください。

3. プッシュレバーの点検……………

プッシュレバー（8ページ参照）がスムーズに摺動するか確認してください。プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

4. 釘送り部の点検……………

⚠ 警 告

- 主送り爪・副送り爪・主固定爪・副固定爪の動作がスムーズであることを確認してください。動作がスムーズでないと、釘が後ろに曲がって打たれる恐れがあり、けがの原因になります。

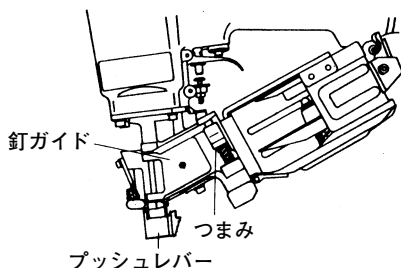


図 12

- つまみの摺動部はときどき掃除し、付属の油を注油してください。

(図 12)

- 図 13 のように釘ガイドを開いて、主送り爪・副送り爪・主固定爪・副固定爪を各々指で押し動作がスムーズであるかどうか確認してください。

付着しているごみやほこりを掃除し、特に爪の摺動する溝とシャフト部には付属の油を注油してください。

- テールカバーと釘ガイドの釘送り面も掃除後付属の油をうすく塗ってください。

油を注ぐことにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

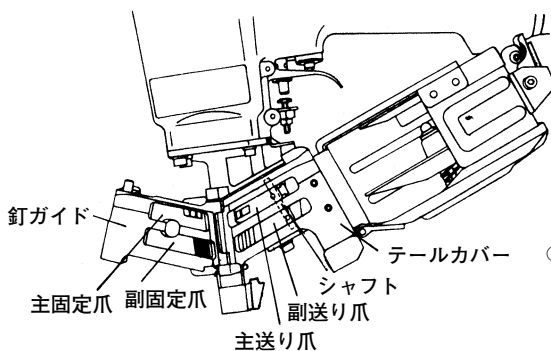


図 13

5. マガジンの点検……………

マガジンをときどき掃除してください。

中にたまった釘連結バンドの破片、木くずなどを取り除いて、付属の油をうすく全体に塗布してください。

6. 作業後の保管は……………

注 • エアプラグにダストキャップをさし込むときは、本機をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後は内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、保管してください。
- 長期間使用しない場合は、さび防止のため、エアホース取付口から給油し、2, 3回空打ちして、油を内部に行き渡らせてください。また、鉄の部分やバルブの部分にも油をうすく塗布してください。
油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を20ページに示しましたので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。また、油の中にごみがあると給気穴をふさいだり摺動部をいためる原因となりますので、清浄な油をご使用ください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、朝の始動が悪くなる場合があります。暖い場所におくか、布きれなどでくるんでおいてください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。

エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサは、使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力（MPa）の関係により、下表を目安に最適な機種を選定してください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 エアコンプレッサおよび出力	0.39～0.49 MPa 4～5 kgf/cm ²	0.49～0.59 MPa 5～6 kgf/cm ²	0.59～0.69 MPa 6～7 kgf/cm ²
EC 6 SA1	120～85本	85～60本	60～40本
0.4 kW	100～65本	65～40本	40～30本
0.75 kW	185～130本	130～90本	90～70本
1.5 kW	330～220本	220～160本	160～120本
2.2 kW	500～340本	340～240本	240～180本

たとえば、2台を毎分平均40本の速さで打ち込む場合は、 $2 \times 40 = 80$ で合計本数は80本になり、0.59 MPa {6 kgf/cm²}の空気圧力で使用すると、上の表から0.75 kWのエアコンプレッサが必要となってくるのがわかります。

別売部品の使い方

⚠ 警告

- 別売部品を取付けるときは、必ずエアホースをはずし、釘を全部抜き取ってください。

打込み調整器の使い方…………

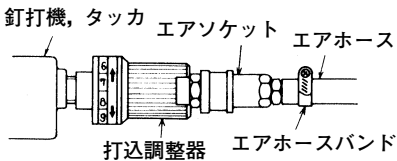


図 14

打込調整器（図5-①）は、釘打機・タッカのハンドル部に取付け手元で簡単に打ち込み深さの調整をするものです。（図14）

本器を使用すると、材料の堅さ、釘、ステープルのサイズなどに合った打ち込み力が得られ均一な仕上がりとなります。

（詳細は打込調整器の取扱説明書を参照してください。）

オイル・フィルタ・減圧弁 …… (エアセット)

工具を最適の条件でお使いいただき、工具を長持ちさせるためオイル・フィルタ・減圧弁をご使用されるようおすすめします。ご使用される際、エアセットから本機までのエアホースの長さは10 m以内としてください。

(日立釘打機用ハンディコンプレッサEC 6SA1には取付きません。)

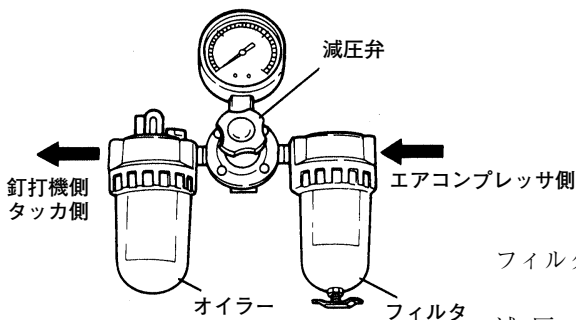


図 15

オイルア…… 清浄で適量の潤滑油を自動的に供給できます。油は、付属の油のご使用を推奨いたします。その他使用可能な油を下記に示します。

5～10本打つ間に1滴落ちる程度に調整してください。

フィルタ…… 圧縮空気中の水分、ごみなどを取り除きます。

減圧弁…… エアコンプレッサの圧縮空気を必要な一定圧力に調整して使用できます。

使用潤滑油

釘打機・タッカに使用する潤滑油は、日立釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
日立釘打機・タッカ用オイル		————— [別途販売しております]
その他の オイル 〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄 SAE 10W, SAE 20W
	タービン油	タービン油各銘柄 ISO VG32～68 (# 90～# 180)

注 ・潤滑油は必ず上表の油を使用してください。不適当な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

メ

モ

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれまして、修理を依頼される時便利です。

お買い上げ日 年 月 日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

- 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全国営業拠点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) ☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目(日生ビル) ☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒110-0016	東京都台東区台東四丁目11番4号(三井住友銀行御徒町ビル) ☎(03) 5812-6331(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号(コスモ栄ビル) ☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番 ☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号(スノークリスタル) ☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号(第一生命ビル) ☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981 ☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎(092) 621-5772(代)

- 電動工具ご相談窓口 — お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター 0120-20 8822 (無料)

※携帯電話からはご利用になれません。(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

電動工具ホームページ — <http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>

